

まつ まえ し しろ あと ふく やま じょう あと
松前氏城跡 福山城跡

■指定年月日／昭和10年6月7日
 ■所在／松前町字松城
 ■管理／松前町



松前氏城跡福山城跡

松前家の前身蠣崎氏^{かきざき}は、大館を拠点とし、5世慶廣^{よしひろ}のとき、豊臣秀吉、徳川家康によって大名に列せられ、姓を松前と改めた。初代藩主となった慶廣^{よしひろ}は、慶長5年(1600)大館の南方にある、福山台地に新城(福山館)を築き、6年の歳月を費やし、慶長11年(1606)完成した。その後、大館にあった寺町^{げんな}を元和5年(1619)までに福山館の周囲に移し、寛永6年(1629)には領内の千軒岳金山の金掘り人を動員して石垣を修築させた。寛永14年(1637)の火災の際、多くの建物が焼失し、同16年に修築した。

嘉永2年(1849)、幕府は蝦夷地近海に出没する外国船に脅威を感じ、要害を固めるよう、17世崇廣^{たかひろ}に特旨をもって築城を命じた。

崇廣は、翌3年、高崎藩の兵学者市川一学に設計させ、家老松前内蔵廣^{くらまさひろ}当を総奉行として(後に家老下国安芸崇教^{あき たかのり}があたる)工事に着手し、5年の歳月を経て、安政元年(1854)新城が竣工した。

新城の規模等は、次のとおりである。

- 面積/23,578坪(蝦夷実地検考録)
- 本丸、二ノ丸、三ノ丸、城門16、三重櫓1、二重櫓3、渡櫓門3、多聞櫓2で、特に海岸に近い三ノ丸には、台場7基を配備した。



福山城天守と本丸御門



慶応3年頃の福山城

竣工とともに、幕府目付堀織部正利熙ほりおりべのしょうとしひろらが新城を検分し、福山城と呼称され、わが国において最北に位置する、最後の日本式城郭となった。

明治元年(1868)10月、幕府脱走軍は、榎本釜次郎武揚えのもとかまじろうたけあきを首領として蝦夷地(現森町鷲ノ木)に上陸した。さらに五稜郭を占拠し、その後、かつての新撰組副長土方歳三を長とする陸軍隊・額兵隊がくへいたいの主力が、福山城へ向けて進撃を開始した。その間、旧幕府軍木造蒸気船蟠龍ばんりゅう及び回天かいてんが城中を砲撃した。

旧幕府軍は、法華寺馬形台地まがどを占拠、さらに天神坂口、馬坂口、新坂口から城内に入り、各所で激戦となった。松前藩は死力を尽して防戦したが、遂に落城し、城内の一部と寺町を焼いて敗走した。

明治2年(1869)4月には、幕府脱走軍の占拠する福山城を官軍が奪回するなど、2年間にわたる戦禍は、城下町の3分の2を焼き、城内にも大きな被害を与えた。

明治5年になって、開拓使の治政下に入り、同6年9月、黒田次官の裁決を仰いで福山城の取り壊しを決定し、同8年までには、三層天守、本丸御門、本丸御殿を残し、他の建物、石垣を取り壊し、濠を埋めて、城郭の形態を失うに至った。

昭和10年6月7日、国指定史跡に指定されたが、昭和24年6月5日、火災により国宝であった三層天守と土塀を焼失した。さらにその後、公有・民有の建物等が増加し、史跡指定地内の荒廃が激しくなったため、昭和51年度より史跡福山城保存管理計画に基づき、保存整備が進められ、現在は平成9年度からの第二次保存管理計画により整備を進めている。